

30年度 5月 園だより

- <教育目標> ・元気に遊ぶ子ども
・豊かに感じる子ども
・考え工夫する子ども

H30. 4. 27 文京区立本駒込幼稚園



思いを受け止めて



園長 原田幸子

玄関前の本駒自然園の小さな池で、たくさんのオタマジャクシが泳ぎ、子どもたちは喜んでのぞきこんでいます。昨年は卵からなぜか孵化しなかったので（加納前園長先生が昨年お書きになった「カエルさんへの手紙」を読んで分かりました）、特に年長児は無事に生まれたオタマジャクシへの愛着が深いようです。「オタマジャクシをクラスで飼いたい」という一人の声から、皆で相談し、池から数匹を連れてきて自分たちで飼育をしています。園庭の花壇では、たくさんのダンゴムシが歩き回っています。そとつままで手のひらに載せ、「くすぐったい」と言いながら嬉しそうに見つめたり、飼育ケースや材料コーナーから持ってきたカップにつぎつぎに捕まえて入れたりしています。

皆さんは、歩いているときに突然お子さんがしゃがみ込んで、何かをのぞきこみ始めたら、どのように声をかけるでしょうか。急いでいるときだったら「早くしなさい」と促したり、人通りが多かったら「危ない」と注意することでしょう。しかし、散歩道だったらどうでしょうか？

先日、外出先でバスに乗ると、前後が親子連れで、前の席の1歳頃のお子さんはスマホを持って（持たされて）、アニメの画面を見て静かに座っていました。後ろの席の3歳頃のお子さんは「バスに乗って楽しいね」と大きな声で言うと、お母さんに「バスは楽しいところじゃないから」と注意されていました。どちらの保護者の方も、周りに迷惑をかけないようにとの配慮からのことと思いましたが、私は少し寂しい気持ちになりました。

人は自分の思いを表したときに、周りの人に受け止めてもらえたと感じると、安心感や喜びを感じます。そして、もっと自分の考えを伝えようとしたり、相手の思いを感じ取ろうとしたりするようになり、これが信頼感へとつながります。信頼感は協調性を育む上で基盤となるものです。前述の散歩道の場面では、ぜひしゃがんでお子さんの目線になって、お子さんが見ているもの、感じていることを一緒に楽しんでみてください。草の下に小さなアリが行列を作って歩いているかもしれません。

本園の保護者の皆様は、お子さんの声をよく聞き、親子のやり取りが活発だといつも感心しています。私たち教員も、子どもの声を受け止めながら、生活を子どもと共に作っています。家庭も幼稚園も子どもたちが安心して思いを表せる場になるようにし、信頼感を育ててまいりましょう。どうぞよろしくお願ひいたします。

各学年の
こいのぼり

ちゅうりつ組



さくら組



すみれ組

